

ミズニラ *Isoetes japonica* A.Braun

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい水草で、水のきれいなため池など減少傾向の著しい場所に生育している。

【形態】

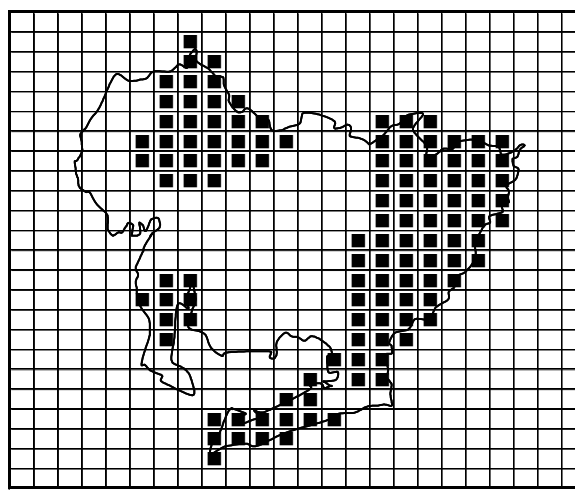
夏緑性の水草。塊茎は長さ 5cm に達することがあり、中心から放射状に出る 3 条の溝で浅く 3 分する。葉は束生し、円柱状、長さ 15~30cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がって、長さ 1.5cm、幅 1cm 程度の卵形になり、その部分の辺縁は薄い膜質、葉の付け根に胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（芹沢 73855, 1997-6-11）、4 津具（芹沢 74852, 1998-8-22）、6 設楽西部（小林 57640, 1995-7-30）、8 鳳来北東部（小林 57859, 1995-8-19）、10 鳳来北西部（小林 59214, 1996-4-27）、11 作手（小林 53915, 1994-9-18）、12 新城（加藤等次 4160, 1003-10-20）、15 豊橋北部（小林 58563, 1995-10-22）、17 田原東部（芹沢 87199, 2011-8-3）、18 田原西部（瀧崎吉伸 26077, 2009-9-27）。西：5 稲武（小林 82829, 2004-9-11）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2993, 2001-9-29）、42a 阿久比（花井隆晃 2493, 2005-10-22）、45 犬山（塚本威彦 1292, 1994-8-15）、48 春日井（村松正雄 27177, 2013-10-27）、50 名古屋北部（芹沢 77437, 2001-6-9）。2 豊根（坂宇場, 村松正雄 11557, 1992-8-16）にもあったが、生育していたため池が放棄されて水がなくなり、絶滅した。14 蒲郡（大塚町, 小林 26235, 1983-10-6）で採集された標本もある。東三河では比較的多いが、西三河は稲武以外では確認されておらず、尾張でも 5 区画で確認されているだけである。かつては名古屋周辺の丘陵地に普通に見られたという。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国（北部）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育している場合もあるし、水田などの水湿地に挺水または半陸生状態で生育している場合もある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域	○	○		

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発、除草剤の使用等により激減し、一時はほとんど見られなくなったが、東三河ではやや復活傾向にある。一部の場所では、休耕田に群生している。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要である。東三河に比較的多いため県全体では準絶滅危惧と評価されたが、尾張では保全の必要性が高く、西三河中南部でも発見されれば同様である。

【特記事項】

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。東北地方南部、関東地方北部、近畿地方西部、中国地方東部、四国北部には、近縁種のミズニラモドキ *I. pseudojaponica* M.Takamiya et al. が分布している。

【関連文献】

保シダ p.21, 平シダ p.56, 学シダ I p.280, SOS 旧版 p.36+図版 23, SOS 新版 p.115,117.
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 84-88. 東京大学出版会, 東京.
高宮正之. 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理 50: 101-138.